

平成27年度「市長と語り合う会」について

1 出席者状況

開催日（曜日）	会場	時間	出席人数		
			男	女	計
11月5日（木）	J Aしまね西いわみ地区本部 中吉田出張所	19:00～20:20	10	3	13

○市側出席者

市長、政策企画局長、総務部長、秘書広報課長

2 会の概要

○開会（秘書広報課長）

- ・ 会の趣旨説明
- ・ 出席者紹介

○あいさつと市政運営の説明（山本市長）

1. 「人口拡大計画から総合戦略へ」

平成26年2月に人口拡大計画を策定した。策定の動機は人口減少が益田市において、深刻で長期的な問題をもたらすことから、なんとか人口減少に歯止めをかけ、拡大に転ずるためにつくった。この計画の策定期間には、日本でまだ人口問題に対する機運は高まっていなかったため、益田市独自の取組みとなった。益田市単独事業であったので財源も限られており、大胆な施策は難しい状況であったが、限られた財政事情の中で事業を実施してきた。

しかしながら、昨年5月に日本創生会議の地方消滅とか消滅可能性自治体という論文により、地方の人口減少がいかに深刻か提起された。地方の人口減少と大都市への人口集中が同時に進んでいる。東京も2020年まで東京オリンピックなどで活況となるが、それ以降はまとまった人口が高齢化し、心配な状況となる。そのため都会から地方へ、一旦流れた人口を戻す地方創生が叫ばれた。

政府も昨年9月にまち・ひと・しごと創生本部を設置し、11月にはまち・ひと・しごと創生法や国の人口長期ビジョンや総合戦略を策定した。そしてこの中では地方での2020年から2040年までの長期の人口ビジョンと平成27年度から5年間の地方版総合戦略の策定が求められた。

益田市ではいち早く人口減少という課題に着目した自治体として、意欲と自負を持ち、総合戦略の策定に取り掛かった。とくに人口拡大計画で示した3つの切り口「子育て世代に手厚く」「UIターン大歓迎」「中山間地域を元気に」にあらたに「ひとづくり」と「しごとづくり」の2つの視点を加え、10月30日によりやく人口ビジョンと総合戦略の策定が完了した。この総合戦略に基づき人口減少の課題に取り組んでいくためには、行政だけでは限界がある。住民や企業の皆様と一体となった取組みをご理解とご協力を得ながら進めていく必要がある。

今回の総合戦略の一番の目玉は子育て支援に力を入れたことである。特に保育料の軽減、その中でも第3子の軽減を今までより思いきって行いたい。第1子、2子については県の方で軽減されることになっている。

2. 「教育委員会制度改革と新たな取組み」

平成27年度から教育の制度が大きく変更になった。いままで教育は政治的な中立性を保つため、独立性のある教育委員会が執行機関であった。しかし、これでは速やかな対応ができないことや、一番市民の考え方を反映する教育に対してなら市長が発言できないのは、かえって民意が反映されない。そのことから教育委員会の独立性を保ちながら、市長と教育委員会が対等に協議調整できる場として「総合教育会議」が設置されることになった。この会議の中においては、教育に関する大きな方向性や施策の目標など大まかな枠組みを決定する。また6月にはこの総合教育会議において、「益田市教育に関する大綱」を決めた。この大綱では、将来子ども達が益田で活躍する、チャンスを作り拓いていくことが可能となるような教育に力を入れることとしている。具体的な内容は「学力向上」「ふるさと教育の推進」「教育と子育て支援の一体化」「キャリア、起業家教育の推進」の4つを小学校から高校まで進めていく。

またもう一つ制度改革として、新教育長が教育委員長の立場を兼ねることとなったので、益田市も旧教育長に4月1日から新制度のもとでの教育長としてお願いしている。

総合戦略や教育大綱においても、「次世代の子ども達を育てる」あるいは「これから益田市のまちづくりを担う」仕事や地域の担い手などの人づくりに力を入れていくことは共通している。とくに「ひとづくり」については、協働構想をつくり、キーワードは「ひとが育つまち益田」として、これを目指し、市民をはじめ各方面の皆様のご協力を得ながら各分野でのひとづくりを進めていく。

3. 意見交換

質問項目は以下のとおり。詳細は、別紙のとおり。

- ①人口拡大計画の考え方について
- ②空き家対策、道の駅、無電柱化、市への要望等の回答について
- ③市長の活動についてについて
- ④市に対する要望について
- ⑤空き家対策について・・・Ⅱ

○ 閉 会 （秘書広報課長）

平成27年度「市長と語り合う会」

〔会場 J A しまね西いわみ地区本部中吉田出張所〕 開催日時：平成27年11月5日（木）19:00～20:20

要 望 事 項 等	回 答
<p>①人口拡大計画の考え方について</p> <p>30年前に益田に戻って自営業をやっている。子どもも育ち、益田に帰っていない。人口拡大計画では企業を呼ぶことをいっているが、益田市のように交通状況が悪い中では、企業がメリットを感じない。山陽圏である山口市があるにもかかわらず、県庁所在地である距離の遠い松江市を商業圏として見ている。これでは、人口拡大につながらないのではないかと。いまでは便利なインターネットで取引できる状況下で、大規模な企業だけではなく個人事業者も大切にしたい。</p>	<p>①人口を増やすために、仕事、雇用を増やすことは大事である。今は大規模な製造業を中心に企業誘致を進めている。ハードルは高いが、全くだめなわけではない。24年には愛知県から立地していただき、数十人の地元高校生の採用をしていただいている。つい先日は、東京にあるソフト系IT企業が益田に進出し、本社もこちらに移転した。これからも支援したい。</p> <p>もう一方、小規模企業の支援も重要である。入札等においては、規模が大きいことから、対応可能な企業としての規模要件をつけているものもあるが、それ以外は幅広く門戸を開いていきたいと思っている。今回の総合戦略では小規模であっても、新しい事務所開設に対して支援することとしている。</p>
<p>②空き家対策、道の駅、無電柱化、市への要望等の回答について</p> <p>空き家対策だが、UIターンで利用できる空き家ではなく、廃墟となっているものである。地区内に倒壊寸前の家屋が3軒あり、隣の家の方が心配されている。以前市から持ち主を調査していただき、所有者が分かったが遠方であったため、なかなか理解してもらえない。空き家対策特別措置法も制定され、市が条例をつくれれば代執行ができるとなっているが、市の考え方を聞きたい。</p> <p>益田川左岸北部区画整理が完成した。これから南部に着手する予定だが、保留地処分のなかで公共施設の話がまだない。ここに是非道の駅を作りたい。</p> <p>区画整理地内の県道バイパス道路などに電柱が多く立っていて、景観を害している。地中化ができないか検討してほしい。</p> <p>地域から陳情、要望、請願があると思うが、市に提出した後、それがどうなっているのかわからない。検討した結果などについての回答が欲しい。</p>	<p>②空き家対策は、益田市全体の問題として捉えている。特別措置法では、今まで自治体で空き家条例をつくっていた所は（代執行に）取り組むことができたが、他の自治体はできなかったことから一律に取り組めるよう法整備された。益田市は空き家条例を持っていないが、この法律により取り組むことができるようになった。</p> <p>しかし従来どおり空き家は所有者の責任で対処することが原則である。代執行も可能だが、放置した方に代執行し、代金を請求してもなかなか支払ってもらえないことが想定できる。支払っていただけの方であれば、こうした状況になれば自分で解体する。したがって、代執行費用が市の持ち出しとなり、誠実にご自分で解体される方とほったらかしの方とのモラルハザードがでる。このため確実に回収できるケースでないと代執行できにくい。もうひとつの考え方は、土地所有者には固定資産税がかかっているが、住宅があると税金の特例が受けられる。市としては、住めない住宅は更地として課税しなければならないが、なかなか手が回らない状況である。これを確実に実施し、更地にしていただき、自分で処分していただくようにすることが一番安全な方法である。こうした効果のある方法で対応したい。</p> <p>区画整理事業は、皆様のおかげで北部においては、今年度精算事業に入り目途がついた。これまで北部中心に進めてきており、終わり次第南部にかかることとしている。北部は公の建物を建てる見込みがあったため、保留地処分も進んだが、南部は今のところJAさんが活用する用意があると聞いているだけである。南部の事業が進めることで、北部の保留地処分も進むことが想定できるので、南部もスピードをあげ事業に取り組んでいき</p>

<p>③市長の活動について</p> <p>市長の任期中にゴミ処理入札問題、サンエイト美都の不祥事、職員の無許可での漁などあったがどのように責任をとるのか。</p> <p>市議会選挙の際に決起大会等へ出席しているが特定の人の会合へ出席するのは公平ではないと思うがどのように考えているのか。</p> <p>④市に対する要望について</p> <p>県外の益田会と太いパイプをつなぎ、できる限り交流を深めていただきたい。</p> <p>萩石見空港利用のために教育委員会と連携し、</p>	<p>たい。</p> <p>その上での道の駅であるが、今年度の施政方針の中で整備をしていくと掲げている。益田近辺の高速道路であるが、今月21日に三隅益田道路の工事が始まり、近辺道路事業が大きく変わることが予想されることから、道の駅をつくりたいと思っている。今年度調査、来年度基本構想をつくり、翌年に基本計画を策定する。その段階で場所等を検討するが、いろんな関係者の希望や思惑があると思うので、オープンな場で議論し、公平公正な形で比較検討させていただきたい</p> <p>電柱埋設化であるが、まちの景観上では非常に大事なことであるが、泣き所は多額の予算がかかるということである。191号線吉田からあけぼのにかけての無電柱化は、公共下水道整備に併せて線を通すことができるので着々と進められている。駅前も県の街路事業に併せて進められている。何らかの事業に併せて進められれば、割安になると考えられるので、タイミングと予算とを見ながらなるべく進めていきたい。</p> <p>要望陳述の答えについては、基本的には回答させていただいていると思う。これら要望等は過去のものすべて担当課に保管されており、記録されているので、何らかのときに対応できるようになっている。</p> <p>③職員の不祥事で、厳密に言えばゴミ処理については、それがあった事実は就任前のことである。しかしながら、現市長としての立場から一定の責任は負わないといけない。その責任とは、再発防止に対する責任であり、職員の綱紀粛正に努めることだと思っている。</p> <p>サンエイト美都、(株)エイトは、第3セクターであり益田市が一定の出資はしているものの民間の企業である。その内容についても市として直接責任をとるものではないと認識している。ただ好ましいことではないので、エイトにもしっかり職員管理をして欲しいと要望している。</p> <p>職員の漁業法違反については、はっきりと犯罪であるので、こうしたゆるみが出ないように、庁内においても本人、上司に厳重に注意する処分を行った。全職員に対しても規律を正すことを徹底した。再発防止に向け、厳格に考えていく。</p> <p>市長として、政治家として活動する中で趣旨に賛同する、また方向性を同じくする議員さんを応援することは許されることであるし、問題となることではないと思っている。</p> <p>④ご要望として承ります。</p>
--	--

児童生徒の修学旅行で利用してはどうか。
東原遺跡について、周辺の文化遺産とマッチした施設整備を図ってほしい。
高津松崎の神社の復元と利用しやすい環境をつくって欲しい。
中須に鴨島があった道標（看板）があったが、これを更新して欲しい。

⑤空き家対策について・・・Ⅱ
先ほどの空き家対策において、倒壊した場合の対応についてもご検討願いたい。

⑤例えば、市道の上に倒れかかったら、市道管理者である市が撤去しなければならない。しかし、倒壊により、周囲に危害や損害を与えた場合は、まずその所有者が管理を適切にできなかったとして責任を負うことになる。これをよく説明し、理解していただくよう説得するしかないと思う。道路を覆うなどした際は、緊急対応しなければならない場合もある。